

KiKiの広場

2023年 2月 1日
cafe NO.148
KiKi



いきなり雪が降ったかと思えば急に暖かくなったりと、寒暖差の激しい今日この頃。先日、エントランスのテーブルの上に置いてあったプラスチックの花入れが突然「パーン！」と割れて、そこら中水浸しになりました。夜は寒く日中はお日様がよく当たる場所なので、温度差に耐えられなかったのか経年劣化なのか原因はわかりませんが、そんなことがあるのかとびっくりしました。暦の上では春ですがまだまだ寒い2月。花入れのようにいきなり身体が悲鳴をあげないように、体調に気を付けてゆっくりと春の訪れを待ちたいと思います。

2月の予定

休館日	14日(火)
定休日	毎土・日・月曜日
臨時休館日	1日(水)～3日(金)
13時開店	8日(水)



「気まぐれシェフのKiKiオリジナルシフォンケーキ」

「ハッピーチョコシフォンケーキ」 300円

ココア生地にチョコチップを混ぜ込んだ、しっとりフワフワなシフォンケーキです。チョコチップはちょっとビターでオトナ味です。

今月のお気に入り・・・「2月に読みたい絵本」

～「おふくさん」「このゆきだるまだ一れ?」「しもぼしら」「そいすべり」「じごくのそうべえ」「チョコだるま」 などなど ～



「おふくさん」は、みんなが笑顔になれる絵本です。こわがらせようとやってきた鬼を、逆に笑わせようとするおふくさんたち。鬼が怒ってもぷにぷにほっぺのおふくさんたちは、にこにこ笑顔で次の手を考えます。さあ、どんな手を使って鬼を笑わせたのでしょうか。「笑う門には福来る」、心の底から幸せな気持ちになれる。「このゆきだるまだ一れ?」は、文は岸田衿子さん、絵は山脇百合子さんです。主人公のみみちゃんと森の動物たちが一緒にそりに乗って滑りますが・・・次々と落っこちてころころ転がって～それぞれ雪だるまになってしまった動物たち。声に出して読むと嬉しくなる楽しい言葉のリズムと、思わず微笑んでしまう可愛らしい絵、この季節にピッタリの絵本です。



～「アナベルとふしぎなけいと」「きつね森の山男」「だんろのまえで」「みんなてめくめく」「そいあそび」 などなど ～



「アナベルとふしぎなけいと」は、絵がジョン・クラッセン、訳は、なかがわちひろさんです。編んでも編んでもなくならないアナベルの不思議なけいとのおかげで、だんだん色づいていく人や街。自分勝手な王子が出てきますが、優しいアナベルの想いには勝てません。「きつね森の山男」は、馬場のぼるさんの初めての絵本です。このお話のキーワードは、「ふろふき大根」。きつねと殿様の戦いに巻き込まれた山男ですが、純粹でちょっととぼけた山男が温かく優しく解決してくれます。この絵本を読むと間違いなく「ふろふき大根」が食べてみたくくなります。



ほっとフレイク

受付テーブルのアイドル?・・・昨年暮れから受付のテーブルの上に登場したのは、博多人形の「サザエさん」です。長谷川町子さんの「サザエさん」発案の地である福岡の西新町のみなさんが、福岡市に編入して100年を記念した事業で、クラウドファンディングの返礼品です。木箱に入って届いたまさしく箱入り娘は、どこに置いたらいいのかわからなくて、初めは受付奥のテーブルの上に大事に大事に飾られていました。『漫画サザエさん No.59巻』の表紙



の一部が元になって作られた「サザエさん人形」、見ていると何だか思わずほわっと笑ってしまいます。年明けにピッタリなので、みなさんに見ていただきたくて表舞台に登場してもらいました。気づいたお客様からは、「わあ～サザエさんだあ!」「可愛い」「え?これ博多人形?」「何でサザエさんがここに?」と、たくさん声をかけていただいています。みなさん笑顔で見られるので、和ませてくれているのは間違いありません。「何でここに?」の問いには、とりあえず、「館長の趣味で・・・(^_^;)」と、答えています。(笑)

